

就学前教育

就学前教育と小学校教育の円滑な接続～育ちと学びのつながり～

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」(10の姿)は、5領域のねらい及び内容に基づく活動全体を通して資質・能力が育まれている子どもの具体的な姿です。「10の姿」を個別に取り上げるのではなく、これらを視点に子どもの育ちを見つめ、指導の際に考慮していくことが大切です。また、「10の姿」を共有するなど、小学校の教職員と連携を図り、就学前教育と小学校教育の円滑な接続を図るよう努めることが求められています。

「10の姿」を視点に資質・能力を捉え 保育を通して育てたい力を見通していく話合いの例

Point 「10の姿」を視点に、幼児期にふさわしい遊びや生活の積み重ねの中で育てている子どもの姿を多面的に捉え、保育者間で気づきを共有しましょう。

～「言葉による伝え合い」の事例～

保育者が読み聞かせした絵本の中に「こもれび」という言葉がある。園外保育に行ったとき、皆で木立の間を散策していると、数名が木の下から空を見上げ、「わあ、きれい」「キラキラしてる」「まぶしいね」「目がチカチカする」などと話している。すると、その中の一人が思い出したように「これ、こもれびだ」と言う。「ああ、こもれびね」「こもれびって、キラキラしてるね」と見上げながら会話が続く。近くにきた友達にも、「見て、こもれびだよ」と伝えて一緒に見る。地面に移ったこもれびを見付けると、「下もきれいだよ」「ほんとうだ」「あっちにもあるよ」などと気付いたことを伝え合いながら、散策が続いていく。

子どもって、絵本を通していろんなことを学んでいるので、絵本の選び方も大事ですね。

気付いたことや感じたことを自分なりの言葉で表現できているなあ。

絵本で知った言葉と実体験が繋がった瞬間だね。実感を伴って言葉を理解したり多様な表現を身に付けたりするんだね。

様々な現れ方をするこもれびに気付いて次々に探している。気づきが広がっているね。

友達と一緒にこもれびを見付ける楽しさを味わっている。遊びの中で目的を共有していくんだね。



言葉による伝え合い

保育者や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。

自然との関わり・生命尊重

自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。(後略)

協同性

友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。

(参考：幼稚園教育要領解説)

(参考：幼稚園教育要領)

Point 見えてきた姿を基に次の保育をデザインし、育てたい力を見通しましょう。

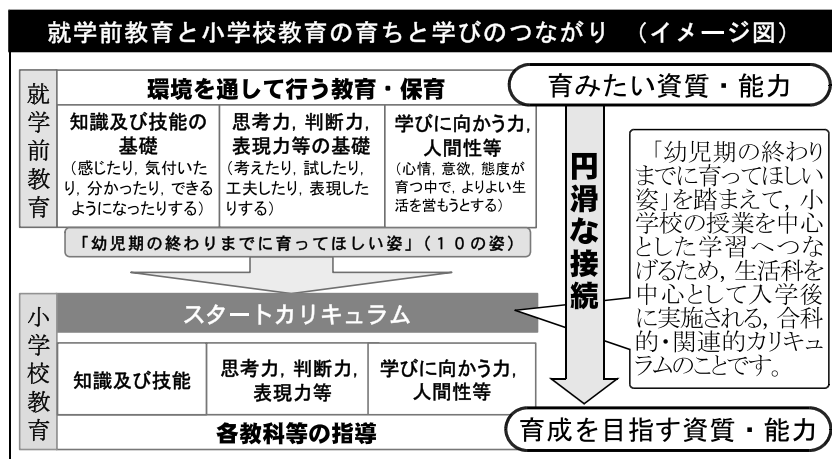


園庭でもこもれび探しを始めそう。場所が違くと、どんな気づきや発見があるかな。



場所だけでなく天候や季節による違いに気付いたり、理由を考えたりする姿も大事にしたいよね。

Point 幼児期の多様な経験や学びは、小学校教育で育成を目指す資質・能力の土台になっていきます。



授業を参観させていただき目を輝かせて主体的に学んでいる子どもたちの姿を見て安心しました。思いや考えを出し合って学びを進めていく姿は、園での協同的な活動の姿と共通していると感じました。



小学校では、主体的・対話的で深い学びの実現を目指して授業改善に取り組んでいます。園では子どもたちが遊びを通してどのように学んでいるのか、教えてください。今度保育参観に行ってもいいですか。